

# 明日はむかえて

●発行/陽光保育園創立40周年記念事業実行委員会 ●発行日/1988年2月20日  
住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎(956) 1 0 6 8

1989年8月に陽光保育園は創立40周年を迎えます。水道タンク前の緑陰保育からスタートし、地域の方々や歴代の役職員の皆さんの温かい協力と支援によって、今日も「子どもたちの城」として、陽光は保育活動を通して、「健やかな子どもの育ち」のため、がんばっています。しかしながら、保育園をめぐる環境は徐々に厳しさを増しつつあり、解決しなければならない問題も山積しています。私たちは、この地域に根づいた陽光の一層の発展を願ってこの40周年という時点をステップにして、さらに活動を活発化していくつもりです。89年に向けてさまざまな行事も企画されており、皆さまの温かいご支援を今後ともお願いいたします。

## 欲しかった

### ピアノがやってきた

#### 上町の佐竹さんから贈られる

子ども達の音感を高め、おなかの底から声を出し歌う事の楽しさを知るためにも、ピアノは保育の中で欠かせない楽器です。でも、古いピアノは、もう十数年も前に、陽光にやって来て大変くたびれていました。

診察をしてもらったところ、また、充分に使えらるという事で、古いピアノには引退してもらい、佐竹さんのご好意を受ける事となりました。



「新しいピアノが欲しい」という事で、ひところ「ピアノ募金」が始められた事もありましたが、わずかな善意の積み重ねでは、とても「新しいピアノ」の夢はかなえられませんでした。

ところが、昨年十二月、大谷口上町に住む佐竹さんから陽光保育園に朗報がまいこみました。佐竹さんの息子さんが、少年の頃使っていた新品同様のピアノを寄贈して下さいというお話です。園では、さっそく、調律師さんと一緒に、佐竹さんのお宅にうかがい、

今年一月、かもしか組の子ども達が、佐竹さんのお宅にうかがい、お礼に、日頃覚えた歌をそのピアノに合わせて歌い、感謝の気持ちを伝え、佐竹さんにも大変喜んでいただきました。



#### 陽光新春落語会開く

### 小はん師匠が二席熱演

四十周年記念事業の一環として、一月二十三日「陽光新春落語会」が開かれました。さて広くない陽光ホールに約百名の地域の皆さんや園関係者が集まり、外の寒さとは違ってかわって場内は熱気がムンムン。

出演は柳家小さん門下の柳家小はん師匠。開口一番は三遊亭窓花さんの「子ほめ」、ついで小はん師匠の「味噌蔵」。仲入りには、演題にちなんで、味噌田楽、お酒、甘

した。佐竹さんは、陽光保育園とはこれまでお付き合いのない方でしたが、陽光保育園の存在を心の片隅にとどめて下さったのでしよう。こうした地域の方々の温かい心を支えにして、保育園をめぐる厳しい条件を克服していきたいと思えます。

#### 陽光での実践に

##### 支えられて

片岡悦子  
(旧姓 藤原・48年退職)

昭和二十四年の夏、青空保育から始められた陽光保育園が、来年で四十周年を迎えられる事、おめでとうございます。

社会のしわ寄せを受け易い保育の場を維持していくのは大変な事だっただけで、皆さんの力でここまで築き上げて来られた保育四十年の歴史の素晴らしさを、今、改めて噛みしめています。その歴史のひとつにもならないわが一年程の在職期間ではありましたが、ここで学び教えられた事の多くが、帰郷後母親となつてからの子どもを見る目の基礎になった事は確かです。親と保育者が子どもを通して同じ喜びを持つこと、子どもは常に伸び伸びとしていて、

決して一つの枠に押し込めてはならないこと。子どもの伸びる芽を大きく成長させていくためには、多くの暖い手が必要なこと。また社会の動きに對しても敏感に反応し、対応していくことなど……。

昨夏、十五年振りに陽光に立ち寄り、以前からお聞きしていた〇才児保育の様子を見せていただきました。同行した友人は、わが居住地の保育所の子よりもより陽光の子どもの方がより自然に近く感じました。どんなに豊かな自然の中にあってもおとなの価値感の押しつけや、管理ばかりを強要する環境の中では、子ども本来の力が生きて来ない事を強く感じます。

今、次々と押し寄せてくる弱者への攻撃から子ども達を守るには、おとなだと思っています。その守りの「かなめ」に陽光はなつてほしいといつも願っています。

酪農を営んでいるわが家の子どもは、鶏、うさぎ、羊、犬、猫等と一緒に遊んでいつも真つ黒け。わが家に陽光の子ども達を招待したいと時折思っています。でも一寸遠いですね。実は私も二十四年七月生まれ。陽光の年令と同じなんです。内容豊かな子ども達の幸福を目指すためには、多くの実践を積み上げていく必要があると陽光の歴史が教えてくれます。不安定な社会情勢の中にあつても、子ども達のしあわせを願って実践されている陽光保育園と陽光を支える多くの方々の仲間となれるよう、私もこの地で頑張るつもりです。  
(現在・北海道紋別市上渚滑町在住)

## お知らせ

#### ◆園児募集中

陽光保育園では現在、四才児一名、五才児四名(二月現在)を募集中です。詳細は保育園までご連絡下さい。

#### ◆第二回陽光ファミリー・コンサート

を、来る五月二十二日(土)開催する予定です。昨年、好評を得ました日フィルメンバーによる演奏です。爽やかな五月の陽ざしの下、名曲を聞きながら楽しいひと時をもちましょ。詳細は後日お知らせします。

## 北から南から

広報第一号の反響は意外に大きく、全国各地に散っている皆さんから、年賀状に寄せて、たくさんのお便りをいただきました。以下に、その一部を紹介いたします。(一)内は旧姓。

◆創立40周年記念事業広報をいただきました。懐きさでいっぱい。保育ヨーロッパ旅行「素晴らしい旅行が実現できてよかったですね。」(新潟県松山町・高橋ミツ子(中島)・48年退職)

◆先日もお便りを頂き懐しく読ませていただきました。皆、頑張りつつあるんですね。私も地道にあちこち頑張りつつあります。(宮城県登米町・工藤淳子(森)・49年退職)

◆40周年に向け、地域に拓かれた保育園として頑張り下さい。(上尾市・榎本恵美子・58年退職)

◆熊本に来てもう一年九ヶ月にもなるのに、陽光保育園での事が増々思い出されます。いつか子連れでフラッと立ち寄りたいたいと思います。(熊本県・泉田代子(梅本)・61年退職、栄養士)

◆地域に根ざして40周年を迎える日が近づき、陽光が更に発展することを祈ります。(高島平・山内貴美子(小池)・58年退職)

◆今朝、片付けておりましたら、「八千代牛乳」のキャップがたくさん出てきました。陽光のにおいがしてとても懐しいひと時でした。(江戸川区・望月根子・61年卒園児)

◆後援会ニュース楽しく読んでいます。会費を納めたので振替用紙を送っていただきたいと思っております。(山口県防府市・山崎栄子(村主)・59年卒園児)

◆保育園での生活はとても良い経験になりました。又、懐しい気持ちが一杯でした。卒業論文は出来上りましたら持って行きます。(板橋区・中野晴美・47年卒園、62年春から秋、卒業のため実習する)

◆保育園に来ている子ども達は元気ですが、そちらに行ったら保育園の子とも遊びたいと思っております。後輩によるしくと言っておいて下さい。(小平市・佐藤三恵子・54年卒園)

◆各クラスからの現況報告

「おさんぽ」大好き

路地裏には不思議がいっぱい

（〇才児・どんぐり組）  
どんぐり組の子も達は十二月で全員が一才。

皆、アノヨが上手になって靴をはいてお散歩に出かけることが多くなりました。路地裏は、やっと歩けるようになった子ども達にあって遊びがいっぱいの世界です。

黒ネコがピューツと道を横切るとヨチヨチと寄っていき、もう見えなくなっているのに、なおもじっと立ち止まって見ている子どもたち。

塀の穴も大人にとっては目にも止まらぬ存在ですが、子どもにとっては何とも不思議な世界なんです。のぞいたり、手を入れてみたり……。

マンホールの穴も空とぶ飛行機にも「アーツ」と指さし、全身が好奇心の固まりです。

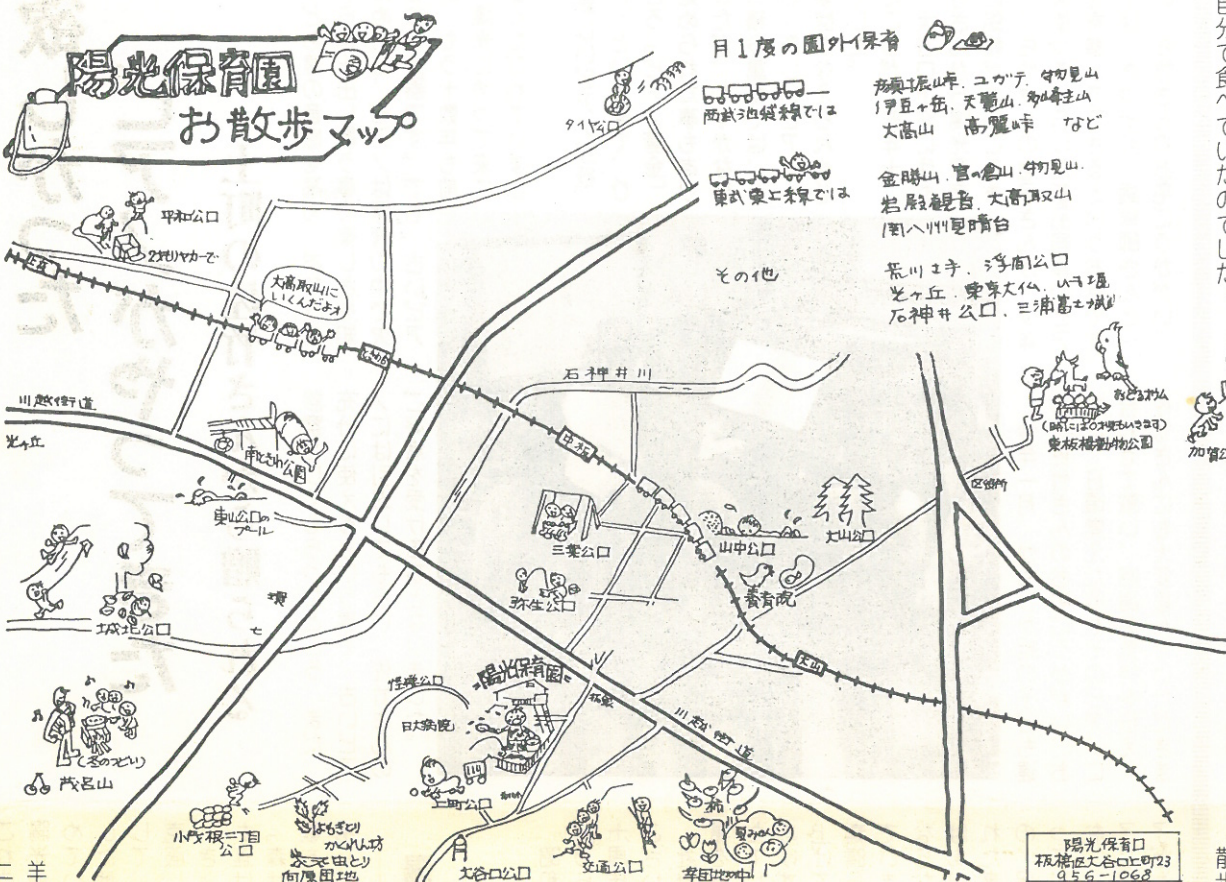
一步一步、大地を踏みしめながら歩く力を確かなものにし、春を待つ木の芽のように、内にいっぱい力を秘めている子ども達です。

※リヤカーでどこまでも

（一才児・めだか組）

いつも歌をうたながらリヤカーで目的地まで行くめだか組。その日も十名の子も達が乗り込みました。前日の激しい寒波できつと養育院の池は氷が張っていることでしょうか。氷で遊ぶことは出発です。

リヤカーは川越街道から大山ハッピーロードを走ります。保母の口からいつも歌う「たんぼぼ」の歌が出る。二人の子がそれにつづき、次第に皆が歌い始め、とっても賑やかなリヤカーの中です。



◎オレは赤影だぞー

（二才児・あひる組）

一日のうちで必ず一回は外に遊びに行かなくては気が済まない、エネルギーが豊富なあひる組。

雨の降る日以外は少々寒くてもなんのその「散歩に行くよー」の声に、マッテ、マッテ」と靴をはきに行く。近所の路地裏散歩の時はきまって誰かが「ハヤク、サンボ、イコーヨー」と言う。

★牛のオシッコ雨みたい!!

（三才児・とんぼ組）

散歩に行こう」と声をかけると、何と言っても「交通公園」という声が多いとんぼ組です。

行く道はどこへ行くにもすぐかくれん坊。最近牛を見に行くのが大好きで、牛小屋の近くに来るとわれ先へと中に入って行きます。

牛がオシッコをした時などは大騒ぎ。「ネエネエ、高田ちゃん、来て来て!!」牛がオシッコしたよ。雨みたい!!」と言ってきた。そばにある人参の皮を牛に食べさせた。ポーンと投げ入れ、牛が食べる様子を見入っています。

「帰ろう」と誘っても「まーだアノ」と言ってきた。なな腰を上げてくれません。子どもにとって動物との触れ合いは欠かせないことのように思います。

◎キャベツを買って動物公園へ

（四才児・うさぎ組）

今日は動物公園にお散歩。公園には山羊や羊、フラミンゴ、可愛いイボニもいるし、アスレチック、水族館、楽しいものが沢山。子ども達と途中の八百屋さんに寄ってキャベツを買って行きまし

た。キャベツを一枚ずつはがして器に入れ、早速サクの中へ。お腹を空かしたヤキ達が群がってくる。持ってきたキャベツを放り投げ「キャー」と逃げまわります。

「可愛いから撫でてごらん」と声をかけると、そろそろと寄って来て仔山羊の耳を触わり、やっとな顔がこぼれる子ども達です。

◎雨あがりの斜面大好き

（五才児・かもしか組）

かもしか組は、城北、茂呂山、タイヤ公園なども好きだ。それぞれの公園に適した遊びを考え出す。中でも城北公園の斜面滑りは特に好きだ。

「汚すとお母さんに叱られるウ」と言っても、やりたいう気持ちを我慢して十回滑るところを二回位で止めていた斜面滑り。雨が降った後の斜面は特に滑りにスピードがつかスリル満点。いくらスピードが出て五才児になると自分の全身を使ってうまくコントロールするから、ひっくり返ったりはしない。

初めは汽車のように連なって滑っていたが、慣れてくるとリズムのついで、斜面を「アヒル」で登ったり、「でんでん虫」で登ったり。遊びは楽しく発展していく。

脳性麻痺による右片麻痺のNちゃん、滑ることは怖いし、登ることも嫌がって逃げていたが、ある日、自分から登り始め、今では自力で登り、滑りができるようになった。

また、みんな「地獄のそうべい」が大好きだ。斜面の上が天国下が地獄。それで地獄に引きずり落とす遊びである。

今では「お母さんに叱られてもいいの」と服が汚れるのも平気。遊びに興じている時の子ども達は心身共に解放され、とても生き生きとしている。

★良い品をより安くお届けします!

お届します! 太陽光保育園では、安全な良い食品を共同購入しておりますが、地域の皆さんにも、是非ご利用いただきたくおすすめております。

品目、数量、値段は次のとおりです。いずれも保存の効く品物ですので、まとめてご注文いただければ幸いです。

★良い品をより安くお届けします!

品名	数量	価格(円)
しいたけ	250g	2,200
どんこ	500g	4,200
きくらげ	200g	1,000
小豆島	1.2kg	1,090
手延うどん	1.5kg	1,360
温めん	1.5kg	1,380
早煮こんぶ	40g	190
ワンラップ業務用	30cm×250m	1,500

かもしか組十五名が巣立つ三月二十日(日)に卒園式

ことしも卒園式の季節をむかえました。かもしか組の十五名の子も達が元気に陽光を巣立っていきま